

2 令和2年度 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 1年 ①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加
 2年 ①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③読解力の定着
 3年 ①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語・表現活動の充実

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	<p>小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別ですと「言語についての知識」については、漢字の小テストで個人差が大きく見られ学習習慣の形成・定着、および細やかな指導が必要な生徒が一定数います。 ・「読む」「話す・聞く」は少し課題が見られますがおおむね平均程度です。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</p> <p>②文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。小説では登場人物の気持ち、論理的な文章では筆者の意見を読み取ることが難しい生徒がいます。</p> <p>③話を聞いて理解することができない生徒がいます。また、目的に沿って話し合いができない生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②小説では登場人物の言動から心情を推測させる。論理的文章では、構成を明らかにして、筆者の最終的な意見を読み取り、まとめさせる。これらを重点的に行い、読解力の向上を図ります。</p> <p>③授業内に対話をしながら解決を図る課題を設定し、話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。話の重要な部分（5W1H）等をナンバリングするなど、聞きながらメモを取る習慣を確立していきます。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別にみると、「話す・聞く力」においては聞き取りテスト等の結果から聞く力がついてきています。しかし、自分の意見を他の生徒の前で話すことに課題をもつ生徒もいます。 ・「書く力」においてはほとんどの生徒が抵抗なく自分の意見を書いて伝えられるようになってきています。 ・「言語についての知識」においては多くの生徒が毎週の漢字の小テストに意欲的に取り組んでいる。 	<p>①聞いて理解する力がついてきた生徒がいるものの自分の意見を伝えることに抵抗感をもつ生徒がいます。</p> <p>②自分の中だけで分かっている、それを相手に伝えるように書いて表現することが難しい生徒がいます。</p> <p>③基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。特に継続して学習を進めることが難しい生徒がいます。</p>	<p>①ビブリオバトルやプレゼンテーションの授業を通して、自分の意見を相手に伝える力を養います。また相互評価を行うことで、これからの生活に生かしていきます。</p> <p>②何のために、誰に向けてなど目的を明確にして、書くように指導します。また、書く順序やより伝えるための構成の工夫についても指導していきます。</p> <p>③基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。（ノート作成、ワークシートの記入の工夫）引き続き毎週漢字の小テストを行い、家庭での学習習慣の定着を目指します。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語についての知識・理解・技能」については、多くの生徒が意欲的に漢字の小テストに取り組んでいるが、個人差が大きく見られ学習習慣の形成・定着、および細やかな指導が必要な生徒が一定数います。 ・「聞く能力」については、聞き取りテストの結果を見ると、正確に内容を聞き取ることができる生徒の割合が7割程度という数値となった。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部見られます。</p> <p>②「聞く力」については、力がついてきた生徒が増えてきたが、口頭で伝えたことや話し合いで聞き取ることができない生徒が一定数います。また、話す際に相手が理解しやすいように「内容を整理」「話の順序を考えてから話す」ことを苦手とする生徒がいます。</p> <p>③漢字の書きに課題がある生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、学習習慣の定着を図ります。（冊子作成、記入の工夫、授業中のフィードバック等）</p> <p>②スピーチ、集団討論等を実施して話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。ナンバリングやラベリングなどの技術を通して、相手に伝わりやすいように順序立てて「伝える」ことを意識化するように指導をします。</p> <p>③学習コンテスト、毎週の漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</p>

(2) 社会科

社会科の重点

- 1年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③活用力の向上
 2年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③応用力の向上
 3年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の充実 ③活用力の向上

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高く積極的に発言する生徒も多く、生徒たちの活動が授業の流れを作り出しています。 知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、その定着率も高いです。 思考力・判断力、資料活用の技能についてはまだ十分に身につけていない生徒がみられます。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習集団全体としては、意欲的に授業に取り組んでいます。聞く・読む・書くといった基本的な学習習慣が身につけていない生徒もみられます。 社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。 問題文や課題の指示が十分に理解できず、読解や思考のポイントがずれることがあります。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> 様々な社会的事象を個別の知識として覚えるのではなく、相互の関係や結びつきを理解させるように授業や教材を構成します。 小テストや復習用の課題を活用して反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 オンライン機能を活用し、授業を振り返ったり、学力を定着させる教材を提示します。 電子黒板などのITC機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。 思考・判断・表現の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的事項を、資料と関連付けたり比較したりしながら捉えるような学習や、課題を追求する思考活動などを授業の中に取り入れ、思考力を伸ばします。 自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。 定期考査において資料活用能力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着率は高まっています。観点別にみると、知識・理解の面では学習方法が定着し、学力も伸びています。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎的な知識を習得する力はついてきましたが、なぜ？という視点から系統的・論理的に捉える力がまだ不足しています。 社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。 中位層の生徒が学力を伸ばしていますが、下位層の生徒の学力が伸びていません。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをまとめさせたり、基礎学力を定着させるための小テストや課題を提示したりします。 電子黒板などのITC機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。 思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> 発問や資料の活用法を工夫し、課題を追究する思考活動を授業の中に取り入れていきます。 自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。 定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着率は高まっています。観点別にみると、知識・理解の面では学習方法が定着し、学力も伸びています。 社会的事象について多面的・多角的に捉える能力が身につけてきました。知識と知識を融合し、論理的にまとめ表現する力も向上しています。 問題文や課題の指示と、提示された文章や資料とが正確に結びつかない形で判断している生徒が見受けられます。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習集団として課題に取り組む意欲や態度が高まりましたが、一部学習意欲が欠落したままの生徒がみられます。 基礎学力が不足する生徒にとっては思考をとまなう活動や資料を読み解くことが難しくなっています。 複数の資料から共通点や相違点などを読み取り、分析する能力が全体的に低いです。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> 学習したこと（考えたこと・調べたこと、知識として身に付けるべきこと）をワークシートにまとめさせます。 思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を活用して、発問や資料提示の工夫・改善をしていきます。 自分の考えをまとめさせたり、意見交換などの対話的な活動を通じて多面的・多角的に課題を追究する学習を取り入れます。 定期考査において、資料読解や思考・表現力を問う問題を計画的に出題します。 ①②のために、単元ごとに基礎的な内容を振り返るための課題と、発展的な課題を設定し取り組ませます。その際、個に応じた目標を設定します。 資料読解能力の育成に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る視点を明確にして、読み取った内容を分析する活動を取り入れます。 入試対応型の演習を授業内で実施して、読解力を高める工夫をします。

(3) 数学科

数学科の重点

1～3年とも

①学習意欲の向上

②基礎学力の定着と向上

③活用力の定着と向上

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容は、分数や小数の計算が苦手な生徒が多いです。 ・強みは数学的な技能の基本的な問題はよくできます。 ・課題は分数の四則混合や、百分率の計算が苦手な生徒がいます。 	<p>①基礎・基本の定着 既習事項の復習や確認といった学習習慣が確立できていないため基礎学力が定着しません。小数や分数の計算に苦手意識を持つ生徒がいます。</p> <p>②技能の向上 小学校で培った力を伸ばし、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要があります。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。週に2回の小テストと各章の章末テストで基本的な知識・技能の向上に努めます。</p> <p>②各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。計算コンテストも年2回行っています。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の学習内容はほぼ理解できていますが、休校のため「資料の分析と活用」や総復習ができませんでした。 ・強みは活用分野（思考・判断力）です。また、休校の間も意欲的に学習し、力をつけた生徒が多いです。 ・課題は数学的な技能がやや弱いことです。意欲に比して計算力不足により正答できていないと考えられます。 	<p>①基礎・基本の定着 二極化しています。小学校や1年の基礎・基本が身に付いていない生徒が一部います。直前に学習したことはよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。</p> <p>②技能の向上 正負の数の四則計算、かっこや分数を含む1次方程式が苦手です。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。また、各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をします。スモールステップの手だてを用意し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばし、成就感をもたせます。</p> <p>②各定期考査前に要点の確認テストと質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の学習内容はほぼ理解できていますが、休校のため「確率」や総復習ができませんでした。 ・強みは技能分野です。また、休校の間も学習し、力をつけた生徒が多いです。 ・課題は数学的な思考力がやや弱いことです。情報量が多いと手をつけられなくなってしまふ様子が見られる生徒が少なからずいます。 	<p>①基礎・基本の定着 二極化しています。小学校や1年の基礎・基本が身に付いていない生徒が一部います。直前に学習したことはよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。</p> <p>②活用力の向上 どの単元においても、問題文を読みどのように解決するかを整理して考えることが課題です。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。小テストで決められた時間内に正確に解く習慣に加えて、見直しの意識付けも行い、計算力の向上に努めます。</p> <p>②習熟度別授業の強みを生かして、細かく声をかけながら生徒同士で答えを見合う活動を行います。また、上述の小テストに加えてテスト前には質問教室を実施します。</p>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・習熟度別少人数指導では、基礎クラスはスパイラルの指導を実施し個々に認め励ますことによって自信を持たせます。また、発展クラスは学びあい教えあう学習により、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせて、学習意欲を高めます。
- ・補充学習を放課後に実施しています。任期付短時間勤務教員が数学科の教員とともに担当し、基本問題を段階を踏んで解くことを重視して、「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。

(4) 理科

理科の重点	
1年	自然の事物現象を見て、問題 を発見する力を身に付ける。
2年	発見した問題に対して課題を設定し、実験観察の計画を立てる。
3年	自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の名称や使い方の理解が乏しいです。 自然事象への興味・関心が高い一方で、日常生活の中の現象と結びつける力が低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察や実験に慣れることが必要です。 ②日常生活の現象から、生徒自らが問いを見いだせるような授業が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察や実験は、教室でできる限りの演習実験を、実験器具の扱い方や注意点について触れながら行います。また、ICT 機器を用いて観察や実験の動画を作成し、振り返りができるようにします。 ②授業の導入部で、生徒が日常生活との関連を見いだせるような、そして不思議に思うような演習をできる限り行います。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 一年次よりも意欲的に学習に取り組む生徒が多くなりました。 知識理解の観点では、繰り返し学習の効果で向上していると考えられます。 「技能や表現」の部分は実際に実験していないためか、問題では特に正答率が低くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校までや中1の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。 ②身近な植物を観察したり、手にとって見たりする機会が少なく、観察の基礎が身に付いていません。 ③生物や気象関係などに興味・関心をもたせる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①繰り返し学習を定期的実施して、技能の習得と興味・関心の向上を図ります。 ②パワーポイントを利用して、実験に近い感覚で授業に取り入れ、技能や表現の向上を図ります。 ③質問教室や補充教室を行い、遅れがちな生徒をフォローしていきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 電流と磁界の単元において、計算問題で特に苦手意識をもつ生徒が多かったです。 「物質」領域では、化学式や原子の記号などを忘れてしまっている生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①計算系の問題に苦手意識をもつ生徒が多いようです。 ②生命分野やエネルギー分野で、覚えるべき内容をしっかりと覚えられるようにする必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①繰り返し学習や小テストや演習を多用し、学習内容の定着を計ります。 ②計算が必要な分野では、補習や質問教室を行っていきます。 ③都立高校受検に向けて、基礎を固め応用力をつけるための問題演習などを、授業内や補習で行っていきます。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに意欲的な生徒が多いです。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、音楽の諸要素に注目して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の授業が再開したら、音楽表現における基礎・基本を定着させ、表現につなげていきます。 ・音楽の知覚と感受を区別して鑑賞できるようにすることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱における正しい発声の仕方や基礎をICTを活用して見本演奏を見せたり、教員が模範演奏を繰り返し行い、定着させます。 ・一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の各領域の系統性をもたせた授業を展開します。 ・ワークシートでの繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことに意欲的な生徒が多くいます。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、曲の特徴や音楽の諸要素に注目して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・話し合いや学び合いの場面を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要であります。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を使って表現する機会を増やし、学習内容の定着を図ります。 ・協働活動を取り入れ、自分の考えを、根拠をもって発表し合う機会を作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。 ・ICTを活用して、良い音楽や演奏を鑑賞し、音楽表現に必要な知識をインプットしていきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して積極的な生徒が多くいます。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、音楽の諸要素に注目して、自ら分析して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・他者の感じ方や考え方を知る協働活動が機会が少いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動に重きを置きます。 ・ICTを活用して、良い音楽や演奏を鑑賞し、音楽表現に必要な知識をインプットしていきます。 ・自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。 ・言葉をもって自らの考えを整理し、表現につなげる活動を取り入れます。

(6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ol style="list-style-type: none"> ①休校中にオンライン授業の活用、情報機器を使用しない課題制作により学習に取り組む姿勢の意識低下を防ぐ。 ②作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。 ③生徒によって予備知識の差で鑑賞教育に理解差が出ています。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習に取り組むものの表面のみで正確に理解できない生徒もいます。 ②制作手順や技法について十分に理解できない生徒がいます。 ③生徒の経験値によって情報の共有し合えず、満足な授業ができませんことがあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し、個別対応や授業中に休校期間に学習した内容を指導者から補足する必要がある。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。
2年	<ol style="list-style-type: none"> ①休校中に情報機器を使用しない課題制作により学習に取り組む姿勢の意識低下を防ぐ。 ②1時間の授業に全員が集中して取り組める授業づくりが必要です。 ③自分で考えたり他の教科で学習した内容を応用するのが苦手な生徒が多いです。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習に取り組むものの情報技術を使用して調べ物をすることに慣れて自分の力で考えることが苦手です。 ②作品の制作進度に大きな差が生じています。 ③何がわからないか考える習慣を身につける必要があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し、個別対応や授業中に休校期間に学習した内容を指導者から補足する必要がある。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③対話形式の鑑賞を通してわからないことから解を見いだす練習をします。
3年	<ol style="list-style-type: none"> ①休校中に情報機器を使用しない課題制作により学習に取り組む姿勢の意識低下を防ぐ。 ②集中力が続かず、作品が完成できない生徒が数人います。 ③作業は熱心に行いますが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習に取り組むものの情報技術を使用して調べ物をすることに慣れて自分の力で考えることが苦手です。 ②作品制作は取り組みますが、制作過程の大切さを理解できていない生徒がいます。 ③自分で考えてものを作ることが苦手で、前例がないと戸惑ってしまう生徒がいます。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し、個別対応や授業中に休校期間に学習した内容を指導者から補足する必要がある。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作させる時間を作ります。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識（感性）を育てます。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康・安全の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な技能や知識を身につけ、それを活用する力（思考力・判断力・表現力等）を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツに向けた実践力を育てる。
- (4) 意欲的に学びに向かう力、仲間と関わり合いながら学習する力を育む。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や運動への意欲、関心が高い生徒とそうでない生徒の二極化傾向が見られます。 ・特に「走る」「投げる」といった基礎的な体力は、例年と比較し低い傾向にあります。 ・思考力・判断力について不十分な面もあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力を育てます。 ③ 自己の課題に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 学習カードや ICT 及びオンライン学習の活用をし、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ③ グループ学習のモデルを示し、チームやペアでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね意欲的に運動に取り組むことができますが、自ら課題を見つけ、主体的・対話的に学習を進めるということについて不十分な面もあります。 ・思考力・判断力・表現力については不十分な面もあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができますようにします。 ③ 学習カードや ICT 及びオンライン学習の活用をし、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね、運動への関心・意欲は高いですが、特に女子において二極化傾向も見られます。 ・自ら課題を見つけ、解決のための方法を選んだり工夫したりする力に不十分な面が見られます。 ・思考力、判断力、表現力等は少しずつ成果が見られ、的確な分析や文章表現ができるようになってきました。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力と協力して学習を進める人間性を育てます。 ③ 自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。 ③ 学習カードや ICT 及びオンライン学習の活用をし、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点 <全学年>

- (1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。
- (2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。
- (3) 生活と知識と技能を関連させた題材により、考えて発表する言語活動を充実させます。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・実習では製作進度に個人差が大きく配慮が必要です。 ・衣食住への興味はありますが、基本的な概念の理解に繋がっていない生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・作品製作の体験が少ないので、作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります ・表現力・発表力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や製作進度が速い生徒に先生役をお願いし、遅れている生徒の手助けを行います。 ・それぞれの生徒が家庭生活で役立つ収納作品の設計と製作を通じて、創造性を高めます。 ・家庭生活や食生活での重要性について重点を置きます。学習内容を踏まえ、実生活で活用できるように指導します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・製作に対して苦手意識をもっており、集中力がやや欠けてしまう生徒が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 ・製作の基礎・基本を確実に習得する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術と実生活との関連を考え、生活の中に役立つ技術について考えて発表する教材を取り入れて、言語活動を充実します。 ・個別指導で、必要な支援を行います。 ・写真や動画などの視聴覚教材を用いて、生徒がつまづきやすいポイントを示しながら分かりやすく説明します。 ・技能に関わる基礎・基本をくり返し確認して、確実に習得できるように指導します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・意欲的に製作に取り組むことができます。 ・限られた時間の中で、創意工夫を考えながら製作することが苦手な生徒が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 ・子どもの成長について考察する姿勢に個人差があります。 ・自分の技能を理解し、見通しをもって製作する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野はものづくりを通して、実践活動を充実させます。 ・他者の考えや実験結果を基に、自分の考えを多角的に捉え、深める活動を充実させます。 ・幼児向けおもちゃの製作活動を通して、幼児の成長に関心をもてるようにしていきます。 ・毎時間、製作の見通しを明確に立て、創意工夫を考えながら取り組むことができる環境作りを徹底します。

(9) 英語科

英語科の重点

1年～3年とも

- ① 自立的な学習態度の定着
- ② 基礎学力の定着
- ③ 言語活動の充実

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング活動、スピーキング活動にに対して、楽しんで取り組むことができる生徒が多くいます。 ・ペアワーク、グループワークへ意欲的に取り組む生徒が多くいます。 ・学力の高い生徒とそうでない生徒の差があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業での課題や宿題へ取り組む意欲は高いですが、自主的に学習に臨む姿勢はまだ不足しています。 ②学んだ単語、文法表現の定着がしっかりできていない生徒がいます。 ③単語レベルが上がり、リーディング活動が困難になっている生徒がいます。また、ライティングへの苦手意識を持つ生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストや発表等の取り組みを通し、達成感を得られるようにします。また学習法のシェアなどを取り入れ、自ら意欲的に学習にチャレンジする姿勢を育てます。 ②学んだ英語をアウトプットさせる機会を増やし、自信をつけさせます。また、繰り返し学習を徹底させることで、基礎学力の定着を図ります。 ③様々な技能と結びつけて授業を行うことで、苦手意識を減らしていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業中の様々な活動に活発に取り組んでいます。 ・基本的な語彙を覚えることには取り組めていますが、それを活用してまとまった量の英文を書くことは得意でない生徒も多くいます。 ・意欲と理解の両面で学力の高い生徒とそうでない生徒の差が顕著になってきています。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業中に課題にうまく取り組めない生徒に対するフォローが十分にできていない面があります。 ② 積極的に Speaking や Writing に取り組んでいる一方で、「伝わる表現」ができていない面もあります。 ③ 基礎的な内容の定着に時間を多く費やしている分、生徒が主体的に英語で発信する活動が不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数指導の強みを活かし、授業中の机間指導を一層充実させます。また小テスト等をこまめに行い、スモールステップで達成感を得られるようにします。 ② 正確に英文を話す・書く表現力を身に付けられるよう、英作文や音読テストをこまめに行い。基礎的な Speaking・Writing 能力の向上を図ります。 ③ 学んだ表現を活かして自分自身のことについて話す・書く活動を多く取り入れていきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」を伸ばす必要がある。 ・「読むこと」が「聞くこと」や「書くこと」より苦手な生徒が多く様々な英文の読み取りが必要と思われる。 ・自己表現力を高めて、必要事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合的に基礎力が身につけてきているものの、自分の表現したいものをアウトプットできない傾向があります。 ②長文問題に苦手意識があり、手をつけられない、途中であきらめるといったことがあります。 ③身に付けた知識を活用するために、さまざまなタイプの問題にふれる機会を多くもつ必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ① Writing や Speaking に取り組む時間を増やし、重要表現をくり返し学習させることで、使える表現の定着を図ります。 ② 帯活動や入試問題など、たくさんの長文問題にふれる中で、逐一その解き方や読み進め方のポイントを指導していきます。 ③ 問題演習をこまめに行うことで、問題への抵抗感をなくし、質問に正確に答える力を身につかせます。

少人数指導の充実（任期付短時間勤務教員活用の工夫）

週4日（月、火、木、金）、教科担当と相談して必要な教材準備を準備し、一斉授業に出られない生徒について個別に指導を行ってもらう。

A L T活用の工夫

教科書の speaking 教材に工夫を加え、生徒の実生活を踏まえたシチュエーションの内容で練習ができるよう準備をしてもらい、リエゾンなど自然な発音指導をしてもらう。また、英作文の添削を通じてより自然で実用的な表現を学べるよう助言をしてもらう。